

展示室4 ジョゼフ・アルバース『形成・接続』

2023年2月28日(土)～4月9日(日)

ジョゼフ・アルバースはドイツのウェストファリア州ポトロップに生まれ、ベルリン王立工芸学校で美術教師になる訓練を受けた後、版画やステンドグラスの技術を習得した後、1920年からワイマールのバウハウスでヨハネス・イツテンの基礎コースを経て絵画を学びました。1923年からバウハウスで教え始め、1925年にはデッサウに移ったバウハウスで教授となります。1933年にバウハウスが閉鎖に追い込まれるとアルバースはアメリカ合衆国に移り、ブラックマウンテンカレッジやイエール大学でバウハウスによって育まれた美術教育を実践します。

『形成・接続』はアルバースが初期から晩年までに生み出した127作品を、分類し記録して後世に残す目的で晩年に制作したポートフォリオです。この展示では左右に一組になった作品を選んでいきます。白と黒の線が生む面と量の印象の入れ替わり、色彩や形の組合せによって生じる凹凸、遠近、大きさの錯視的効果、線の繰り返しがもたらす上昇と下降、突出と後退の動きなど、アルバースが二つの形を並べて提示した多様な現象を紹介します。

例えば「二重構造星座」では左右の形を見比べると、矩形の組み合わせが生み出す面と立体の感覚が、一本の線が付加されることで、天井に見えた面が底面へと転ずる視覚のトリッキーな現象を体感することができます。

作者名	(生没年)	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
ジョゼフ・アルバース	(1888～1976)	『形成・接続』より	1972	シルクスクリーン・紙	38.0×101.7
1		I-6 摩天楼			
2		I-7 海(左)、白い円(右)			
3		I-16 ト音記号			
4		I-19 正方形讃歌			
5		I-21 摩天楼(左)、窓(右)			
6		I-23 正方形讃歌			
7		I-28 変化形(西洋、東洋)			
8		I-31 図形構造 上昇(左)、合間(右)			
9		I-32 図形構造 序唱			
10		II-2 水槽			
11		II-9 変化形(北の気候と南の気候)			
12		II-10 構造星座			
13		II-13 正方形讃歌			
14		II-15 正面(左)、大聖堂(右)			
15		II-19 正方形讃歌			
16		II-21 二重構造星座			
17		II-27 正方形讃歌			
18		II-31 パーゴラ(左)、連結(右)			
19		II-33 正方形讃歌			

※都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承下さい。